

# ビワ生育情報

第 9 報  
千葉県農林水産部  
令和 6 年 6 月号

6月1日現在の果実の発育は3品種とも平年より早く、「楠」の収穫は5月中旬、「大房」と「田中」の収穫は5月下旬から始まっています。収量は前年より少ないと予想されます。

## 1. 果実の発育

6月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が4.34cm、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ5.40cm、4.79cmで、「楠」は平年と同等、「大房」と「田中」は平年より長かった。

縦径は「楠」が4.82cm、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ5.56cm、5.42cmで、「楠」は平年と同等、「大房」と「田中」は平年より長かった。

果形指数は「楠」が0.90、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ0.97、0.89で、「大房」と「田中」は平年並み、「楠」は縦長傾向であった。

着色程度は「楠」が4.0、「大房」と「田中」は3地区の平均がそれぞれ4.0、3.8で、着色の進みは3品種ともに平年より早かった。

暖地園芸研究所の収穫は、「楠」は5月14日、「大房」は5月24日、「田中」は5月27日に始まった。本年は12月中に開花がほとんど終了し、1～2月及び4月以降に平均気温が高く推移したため、収穫期は平年より早くなった。

本年は着花房率が平年より高く、寒害の発生は少なかった。果実は大玉傾向であるが、果樹カメムシ類等による被害が前年より多く、5月下旬の強風による落果も発生した。以上のことから、最終的な収量は前年より少ないと予想される。

表1 果実の発育（6月1日の果径）

品種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果径指数			果色		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.34	4.43	4.35	4.82	4.77	4.51	0.90	0.93	0.96	4.0	3.3	3.9
	青木	5.12	4.97	4.99	5.31	5.13	5.13	0.96	0.97	0.97	4.0	3.2	3.8
大房	南無谷	5.55	5.05	5.25	5.74	5.25	5.32	0.97	0.96	0.99	4.0	3.3	3.7
	暖地園研	5.53	5.08	5.38	5.64	5.16	5.44	0.98	0.97	0.99	4.0	3.1	3.9
	平均	5.40	5.01	5.21	5.56	5.18	5.30	0.97	0.97	0.98	4.0	3.2	3.8
田中	青木	4.72	4.49	4.77	5.03	4.99	5.22	0.94	0.90	0.91	3.9	2.1	3.8
	南無谷	4.61	4.50	4.92	5.41	5.04	5.66	0.85	0.90	0.87	3.5	2.1	3.9
	暖地園研	5.05	4.57	5.00	5.83	5.04	5.53	0.87	0.91	0.90	3.9	2.1	3.7
	平均	4.79	4.52	4.90	5.42	5.02	5.47	0.89	0.90	0.90	3.8	2.1	3.8

果形指数：横径／縦径

平年：平成6年～令和5年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和5年の25年間の平均

## 2. 令和6年5月の気象

令和6年5月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は全半旬で平年より高かった。月平均気温は19.4℃で、平年より0.9℃高く、前年より0.4℃高かった。

降水量は第1、第3、第4、第6半旬は平年より多く、その他の半旬は平年より少なかった。月合計は228mmで平年の149%、前年の157%であった。

日照時間は第1半旬は平年より多く、第3、第4半旬は平年並み、第2、第5、第6半旬は平年より少なかった。月合計は179時間で平年の95%、前年の87%であった。

表2 令和6年5月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	17.6	17.2	18.4	29	22	1	43	31	58
2	18.4	17.7	18.3	19	24	41	27	30	35
3	19.5	18.1	17.3	56	26	27	28	29	15
4	19.1	18.6	20.8	52	25	39	32	30	39
5	20.3	19.3	19.1	0	25	13	19	31	34
6	21.4	19.8	20.0	72	31	25	30	36	25
平均/計	19.4	18.5	19.0	228	153	145	179	188	206

平年：1991～2020年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

## 3. 7月の作業

7月に入り梅雨が明けると、本格的な夏を迎える。収穫後に弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んになるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けた草刈り、刈り草敷きや、カミキリムシの防除がある。

### (1) 草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておくのと、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

### (2) カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するのはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また、食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので、注意を要する。成虫は産卵のために、7～8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。卵は見つけ次第つぶす。防除に際しては千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従う。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>